

セーフコミュニティちちぶ 子どもの安全対策委員会

—再認証 国際審査—

発表者：委員長 川田 哲也

所 属：秩父地区PTA連合会

子どもの安全対策委員会設置の背景

①乳幼児の自宅での転倒・転落による救急搬送が多い状況にある。

 背景①

②小・中学生のケガが多く発生している。

 背景②

③子どもの自転車運転中の外傷が多い。

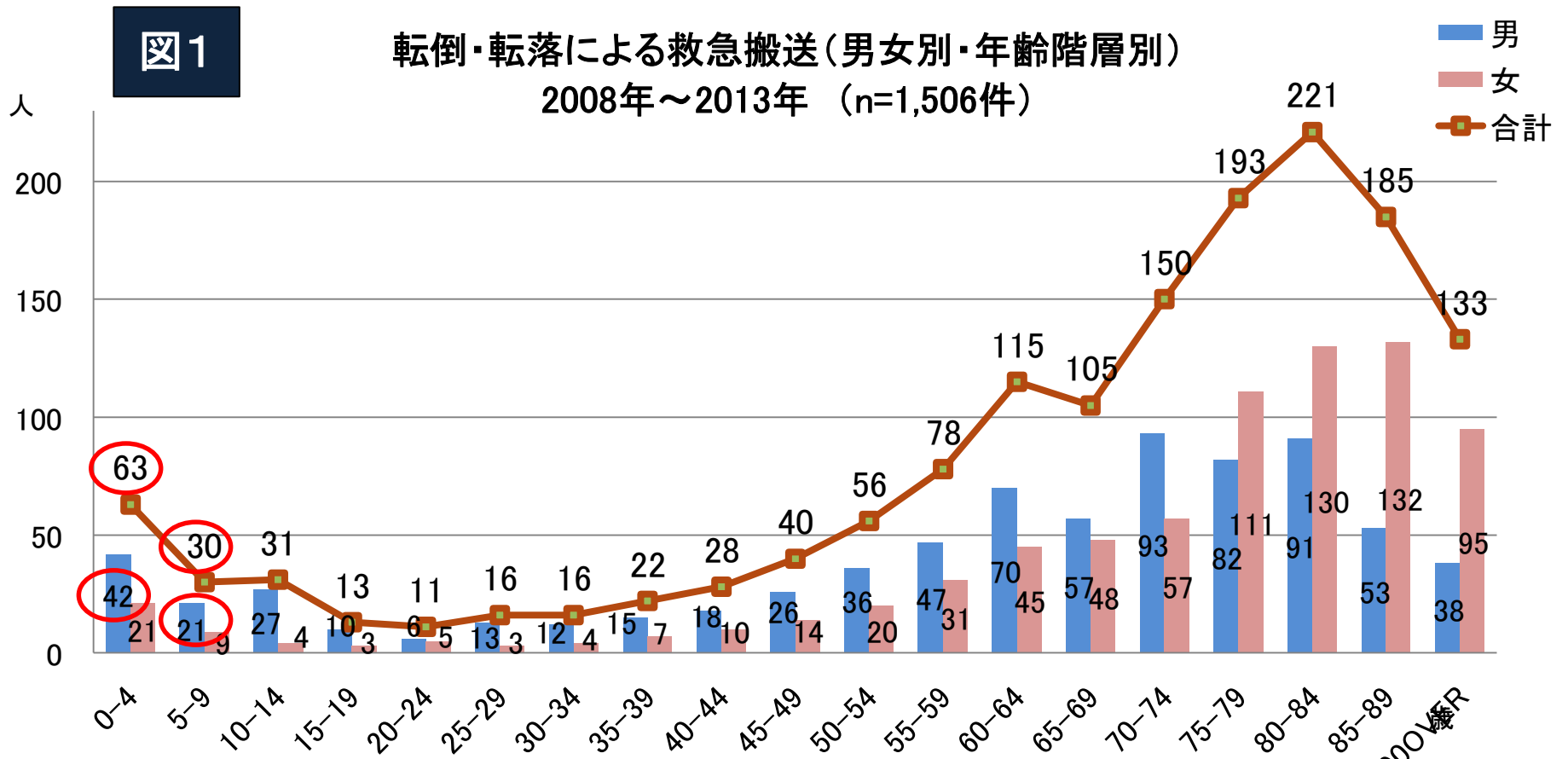
 背景③

④いじめの認知件数が増加する状況にある。

 背景④

対策委員会設置の背景 ①

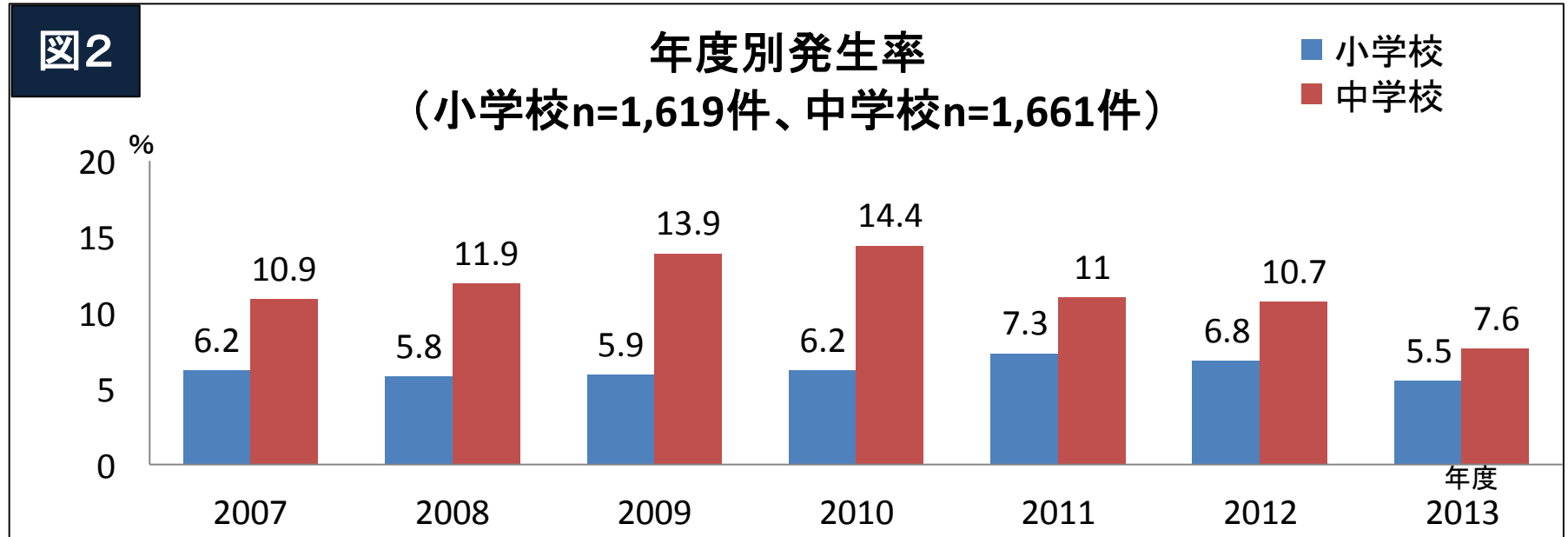
乳幼児の自宅での「転倒・転落」による救急搬送が多い。



出典:救急搬送データ(2008年～2013年)

対策委員会設置の背景 ②

小・中学生のケガが多く発生している。



	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
発生件数(小学校)	251	229	224	230	260	236	189
発生件数(中学校)	245	258	294	297	220	205	142
小学校児童数	4,047	3,928	3,769	3,684	3,560	3,475	3,408
中学校生徒数	2,240	2,164	2,117	2,057	2,004	1,914	1,858

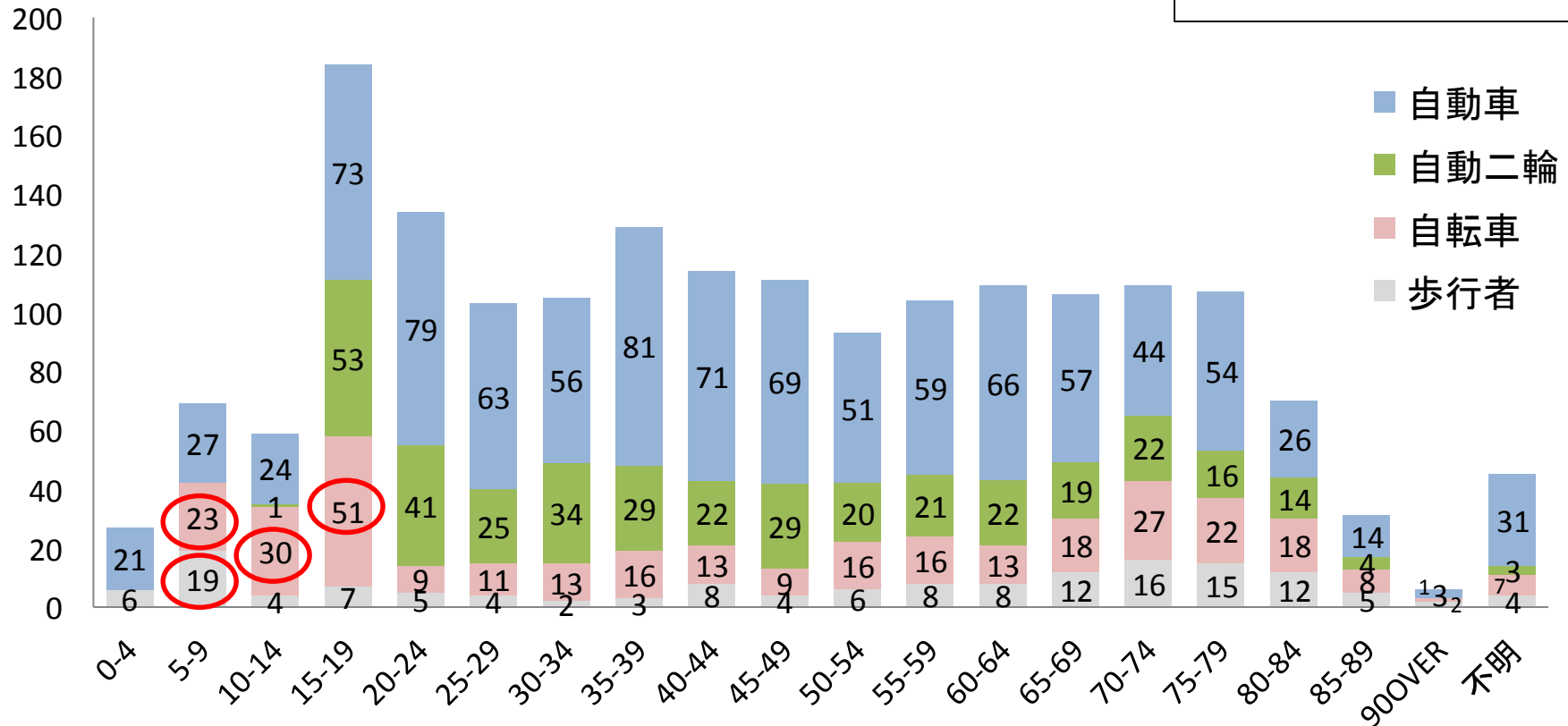
出典: 日本スポーツ振興センター災害給付データ(2007年度~2013年度)

対策委員会設置の背景 ③

子どもの自転車運転中での外傷が多い

＜自転車運転中の外傷＞
 5歳～9歳 33.3%
 10歳～14歳 50.8%
 15歳～19歳 27.7%
 ＜歩行中の外傷＞
 5歳～9歳 27.5%

図3 交通事故による救急搬送の状況 (n=1,815件)



出典: 救急搬送データ(2008年～2012年)

対策委員会設置の背景 ④

いじめの認知件数が増加する傾向にある。

図4-1

ネットトラブルの報告件数

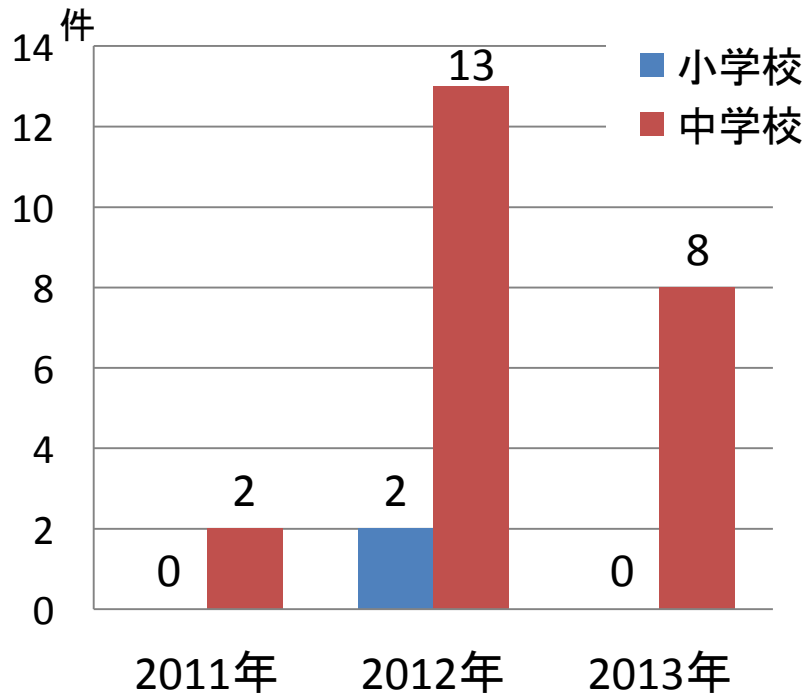
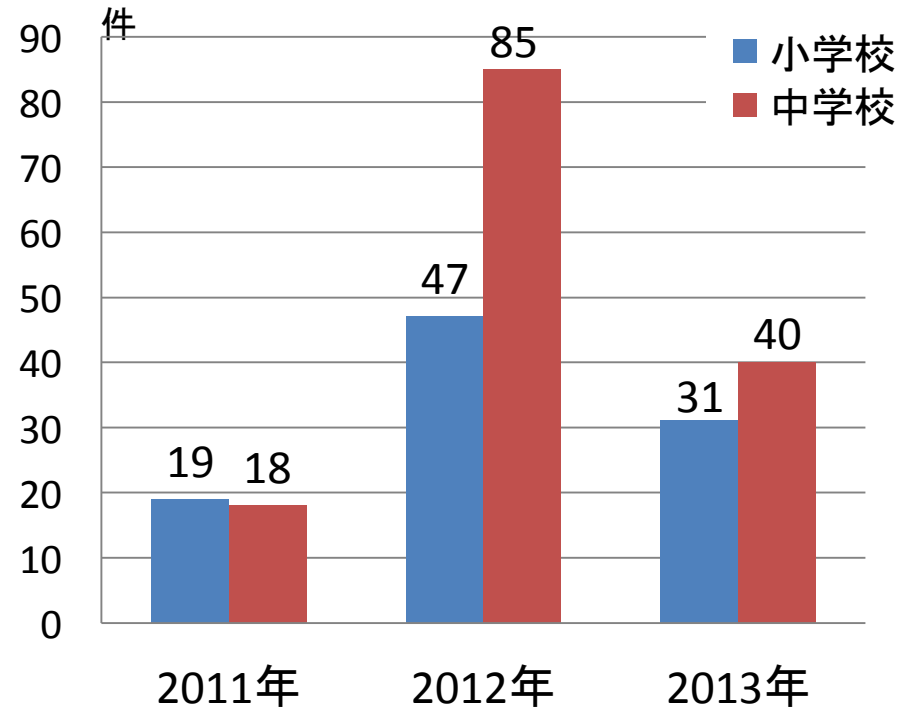


図4-2

いじめの認知件数



子どもの安全対策委員会の構成

区分	団体・組織名	委員数
住民組織 (7)	秩父市町会長協議会	1名
	秩父市民生委員・児童委員協議会	1名
	PTA	4名
	私立幼稚園連合会	1名
教育機関 (10)	学校	3名
	保育所	6名
行政機関 (7)	秩父警察署	1名
	秩父市（こども課、保健センター、教育研究所、公募職員）	6名

子どもの安全対策委員会の経過

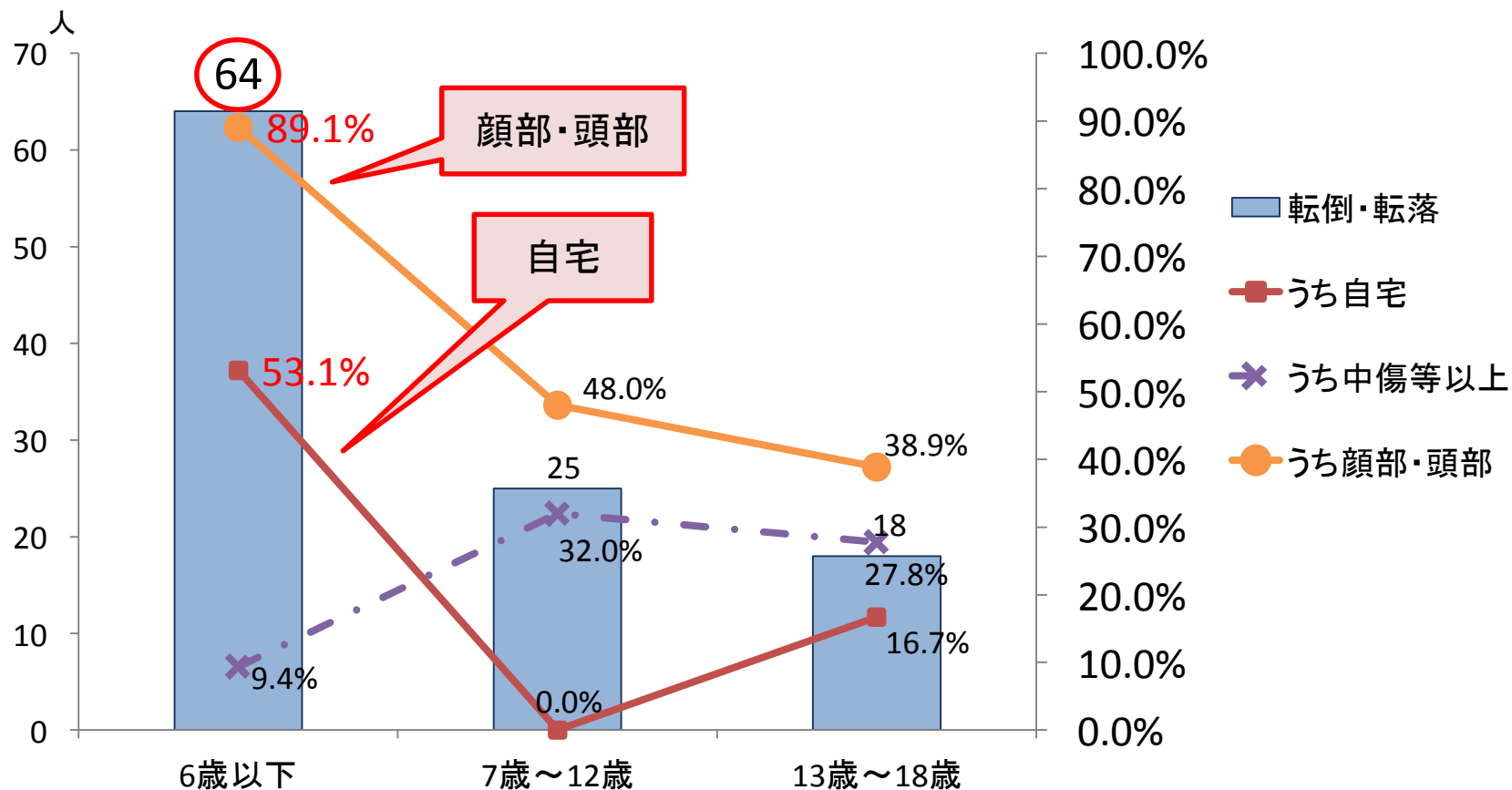
回数	開催日	主な会議内容
第18回 ～ 第30回	2016年 5月 ～ 2019年 5月	取組み①～⑦について協議 「取組みの充実・周知・新規」、「課題の整理と対策」、 「成果と評価指標」、「アンケートの結果」、「連携強化と 効果的な取組み」、「効果的な引継ぎ」について
	2016年 10月19日	◆SC認証1周年記念イベント（箕輪町SC関係者による講演会 とSC取組み報告）
	2017年 9月10日	横浜市栄区SC事前指導視察
	2017年 11月25日	◆市民安全・安心フォーラム2017inちちぶ（S C 認証2周年 記念イベント）有識者によるS C分科会等の開催
	2018年 5月 2019年 5月	◆SC講演会（新委員向け研修含む）
	2018年 8月	防犯講演会参加「子どもと地域の安全をどう守るか」
	2019年 2月1日	◆SC事業報告会
第31回 ～ 第36回	2019年 8月7日 ～ 2021年 3月18日	◆再認証事前審査報告内容の確認について 事前審査の振り返り及び現地指導に向けての見直し ◆コロナ禍での取組みについて

データからみた客観的な危険(1)

乳幼児の転倒・転落によるケガ

乳幼児は転倒・転落が多く、半数が自宅での受傷

図5



データからみた客観的な危険(2)

乳幼児の「転倒・転落」自宅での転倒が一番多い

表1

乳幼児の一般負傷の要因

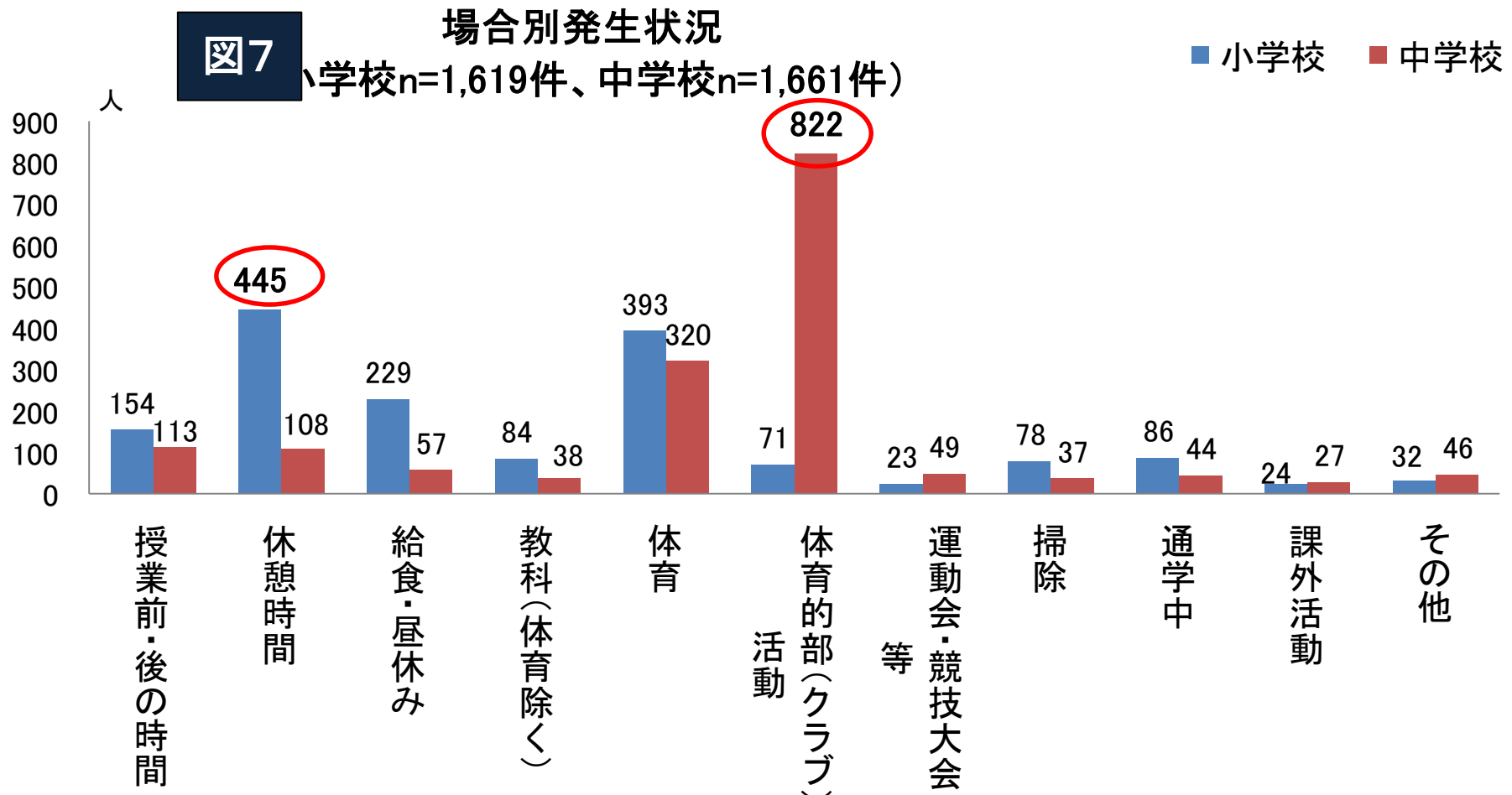
出典:救急搬送データ(2008年~2012年)

子ども(0歳~6歳)の「一般負傷」の要因									
	鋭利なものとの接触	挟まれ・巻き込まれ	誤嚥による窒息	衝突・接触	転倒	転落	その他	不詳	合計
公衆出入場所	0	2	1	3	8	17	3	1	35
教育施設(幼稚園等)			1		1	3			5
商業施設(スーパー・コンビニ・量販店等)					1	4		1	6
余暇・スポーツ施設				2	4	6	2		14
公共交通(駅・電車・バス等)		1			1	1			3
その他		1		1	1	3	1		7
住居	6	7	7	8	11	24	10	3	76
自宅(屋内)	6	5	7	8	9	18	10	3	66
自宅(屋外)		2			1	6			9
知人宅(屋内)					1				1
道路・駐車場		1			3	1	1		6
不詳								1	1
合計	6	10	8	11	22	42	14	5	118

データからみた客観的な危険(3)

小・中学校における場合別のケガの発生状況

小学校は休憩時間、中学校は体育的部活動でのケガが最も多い



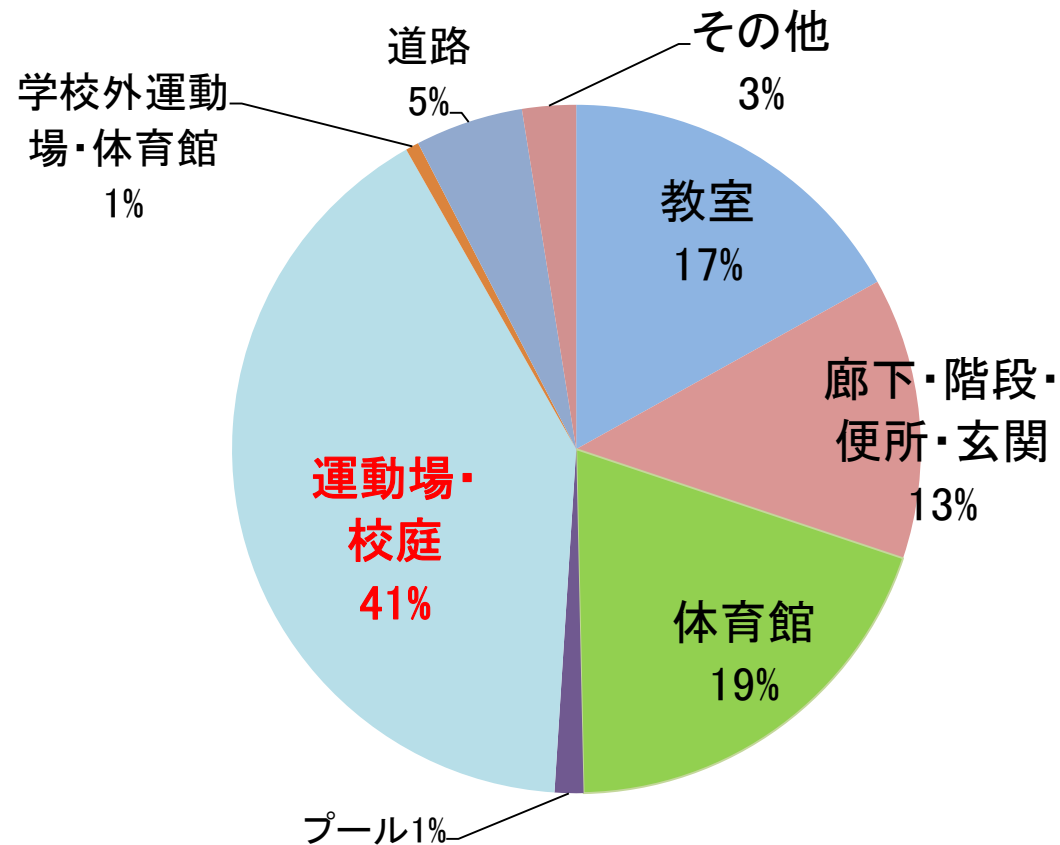
出典: 日本スポーツ振興センター災害給付データ(2007年度~2013年度)

データからみた客観的な危険(4)

小学校では「運動場・校庭」が最も多く4割以上

図8

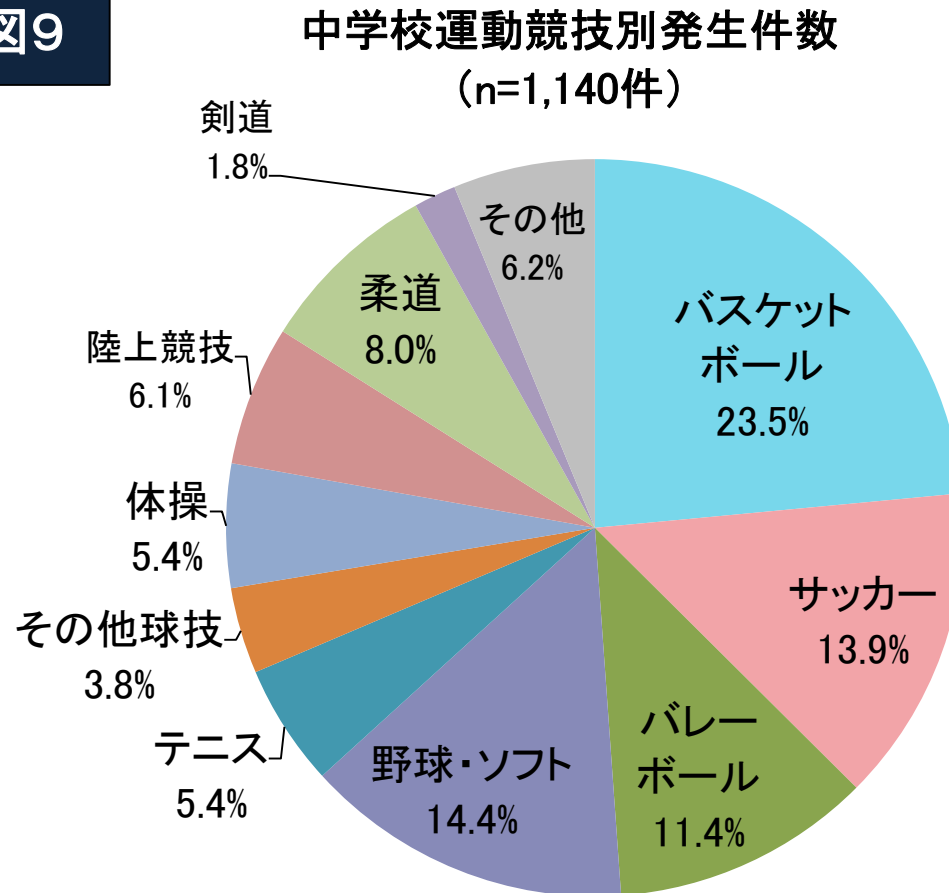
小学校での場所ケガの発生状況(n=1,619件)



データからみた客観的な危険(5)

「バスケットボール」でのケガが最も多く、「野球・ソフト」、
「サッカー」が続く

図9



子どもの安全対策委員会 地域診断による課題の整理

図1

図2

図3

図4-1

図4-2

図5

図6

表1

図7

図8

図9

課題1 子どもはケガが多い

- 学校・保育所・幼稚園や家庭内でのケガが多い
- 中学生は特に部活動でのケガが多い

課題2 子どもの自転車運転中の外傷が多い

- 交通安全マナーが悪くなっている(委員の主観)
- 自転車の事故が多い

課題3 ネットトラブルの増加

- スマホによるいじめが増加している(心配)

課題4 いじめ認知件数の増加

- いじめの認知件数が増加している

課題5 地域のつながりが希薄になっている

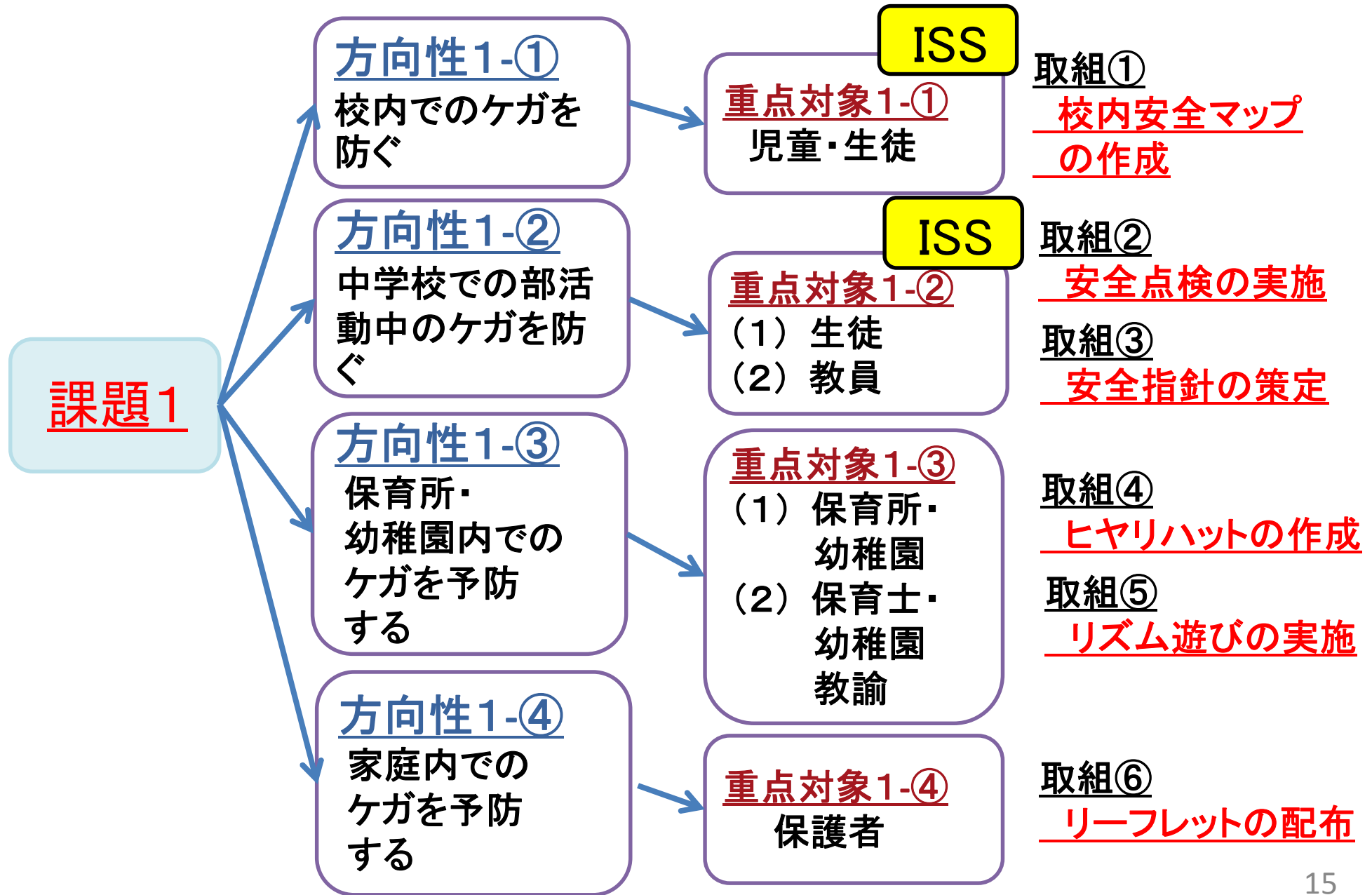
- 地域活動に参加していない保護者が多い

方向性
1

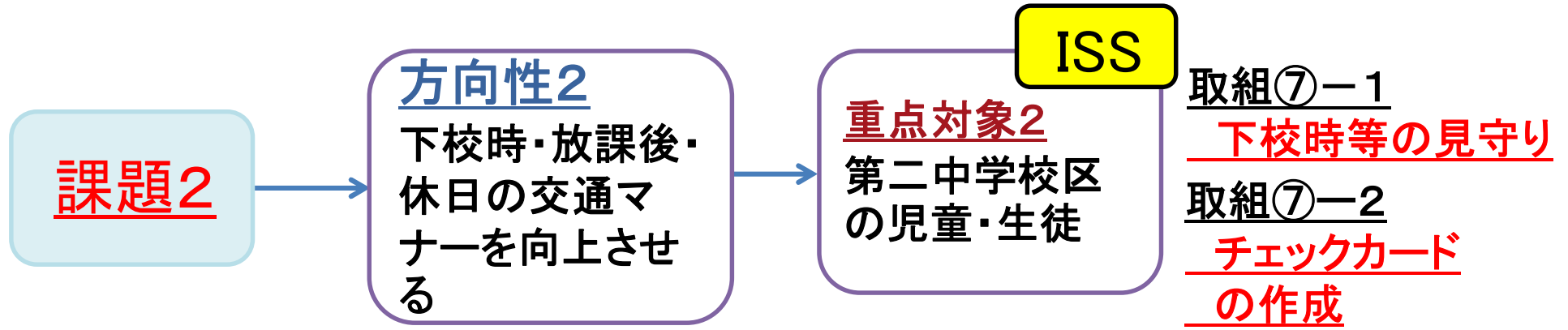
方向性
2

方向性
3

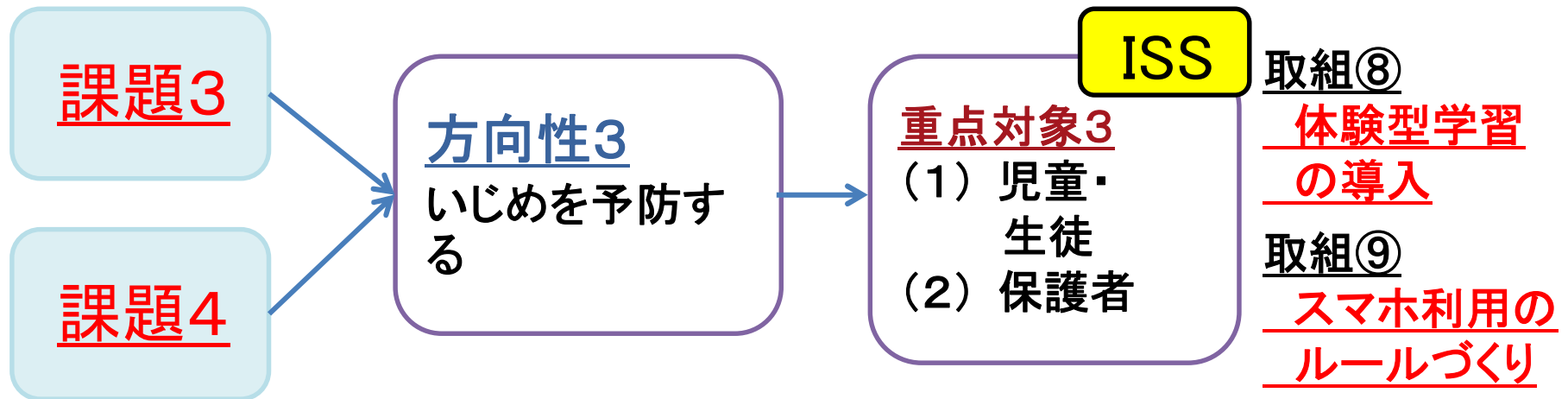
課題、方向性、重点対象、取組の整理①



課題、方向性、重点対象、取組の整理②



※「課題2」については、交通安全対策委員会の取り組みとする



課題①に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
(課題①) 子どもはケガが多い	教育・啓発	◆「健やか親子21」パンフレット	◆子育てハンドブック ◆子育て支援 ◆子どもの健康・相談	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>対策委員会の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内安全マップの作成 ・部活動安全点検、安全指針 ・転倒予防、対応パンフレット作成 ・ヒヤリハット作成 ・体幹トレーニング ・スポーツテスト ・ケガデータの収集、分析 ・危険予測学習 </div>
	規制・罰則	教育・保育施設における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン		
	環境整備	施設・設備の改善(写真①②③④)		

写真①



写真②



写真③



写真④



課題③④に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
(課題③) ネットトラブル の増加 (課題④) いじめ認知件 数の増加	教育・啓発	◆埼玉県いじめ撲滅宣言	◆ライフスキル教育 ◆ISSへの取り組み 対策委員会の取り組み ・体験型学習の強化 ・スマホ利用のルールづくり	
	規制・罰則	◆いじめ防止対策推進法	◆秩父市いじめ防止基本方針	
	環境整備			

校内の受傷場所、危険個所を調査し、子どもたち自身でマップ作成をすることで「視覚化」と「予防意識向上」



ISS推進校3校で作成

- ・花の木小学校
→マップの見直しを実施
- ・南小学校
→毎年5・6年で作成
- ・秩父第二中学校
→ケガの発生場所を校内マップに落としている

対策委員会の役割

- ・校内安全マップの作成支援
- ・ケガデータの収集、提供

花の木小学校

南小学校



校庭でのケガ予防(学校)

- ・遊具の使い方の説明
- ・校庭の石拾いを実施

環境整備(学校)

- ・衝突防止ミラー設置
- ・危険個所標示の設置



1. 校内安全マップの作成

	内容	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
活動	校内安全マップ作成学校数	3校	3校	3校	3校	3校
短期 ・ 中期	危険を予測し、危険なことをしないと回答した割合（南小学校）	79% n=193	85% n=184	99% n=168	100% n=153	97% n=150
長期	学校内のケガの発生件数（ISS3校）	1838 件	1796 件	1562 件	1401 件	1535 件

中学校の部活動で使用する器具や設備、危険個所の点検を教員・生徒で実施



対策委員会の役割

- ・安全点検の支援
- ・ケガデータの収集、提供

SC認証後の変更点

- ・顧問の先生が実施⇒生徒も実施
- ・顧問の先生と部長が月1回、部員全員で年2回実施



生徒と教師と一緒に健康チェック、準備運動、練習方法、整備運動、設備の利用方法などの指針の策定。



対策委員会の役割

- ・安全指針の策定支援
- ・ケガデータの収集、提供

SC認証後の継続

- ・毎年安全指針の見直しを実施。
- ・すべての部員が毎年策定指針の確認。



SC認証後の取組み(改善点)

秩父第二中学校の野球部で実施

バッティングの際のファウルチップで目と鼻をケガをするケースが多いというデータに基づき、打撃練習時に、フェイスガードを着用しているものです。



バッティング



守備にも活用



他の学校へ普及

2. 安全点検の実施

内容	2018年	2019年
安全点検実施回数【活動指標】	顧問の先生と部長が月1回 部員全員で年2回実施	
部活動での安全点検を行うことで、安全意識が向上したと考える生徒(第二中学校)	98%	99.3%
部活動での安全点検を実践する生徒(第二中学校)	100%	100%

3. 安全指針の策定

内容	2018年	2019年
安全指針の見直し【活動指標】	毎年全ての部活で見直しを実施	
準備運動などの指針を守ることで、その大切さを理解している生徒(第二中学校)	98.1%	97.4%
安全指針を実践する生徒(第二中学校)	100%	100%

2.安全点検の実施・3.安全指針の策定

ISS推進校

中期評価(意識変化)

内容	2016	2017	2018	2019	2020
部活動中でのケガ発生件数 (第二中学校)	56 件	62 件	49 件	52 件	37 件

長期評価(状況の変化)

内容	2016	2017	2018	2019	2020
校内で発生したケガの件数 (第二中学校)	305 件	322 件	279 件	280 件	288 件

取組み4 保育所ヒヤリハットの作成

保育所内でケガが発生しやすい場所などをまとめた「ヒヤリハット集」を作成する。

全ての公立保育所（5園）でヒヤリハット集作成

- ・週1回園内情報共有会議
- ・月1回各公立保育所間情報共有会議

SC認証後

危険予測学習（2017年～）5歳児対象

子どもと保育士
に対して
危険予測学習
を開始



対策委員会の役割

- ・ケガデータの収集、分析
- ・危険予測学習の実施の呼びかけ
- ・産総研による出前講座の開催
- ・アンケート調査の実施

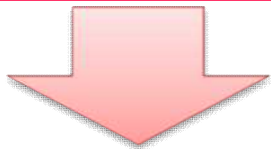


取組み5 リズム遊び(体幹トレーニング)

転倒によるケガが多いことから、体幹を鍛え、バランス感覚を養う体操を導入する。

2014年 日野田保育所（4～5歳児）で実施
2015年 全市立保育所で実施（年齢も拡大）

SC認証後



2016年 すべての公立保育所で実施
週1回程度実施
2017年 すべての公立保育所で実施
週2回程度実施
2018年 全公立保育所でスポーツテストを実施

対策委員会の役割

- ・ケガデータの収集、分析
- ・アンケート調査の実施
- ・スポーツテストの結果の集計



評価

4. 保育所のヒヤリハット・5. リズム遊び(体幹トレーニング)

	内容	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
活動4	保育所ヒヤリハット 会議の回数	週1回園内情報共有会議 月1回各公立保育所間情報共有会議				
活動5	リズム遊び実施回数	全公立保育所 週1回実施	全公立保育所週2回実施 スポーツテスト(2018～)			
短期	保育士の意識の向上 (アンケート結果)	2018年から意識調査		74.4% n=43	-	91.8% n=61
中期	病院で受診が必要な ケガ発生件数	4件	8件	5件	13件	41件
長期	子どものケガの発生 件数(保育所内)	362件	186件	297件	400件	540件

取組み6 リーフレットの配布

家庭内でのケガが多いことから、リーフレットを作成し、各保育所・保健センター等で配布する。

秩父市子ども家庭内事故予防リーフレット

子どもを事故から守ろう！

【発行・配布先】 秩父市子ども家庭内事故予防委員会 電話【0494-23-8561】
 【お問い合わせ先】 秩父市子ども家庭内事故予防委員会 電話【0494-23-8561】

家庭でできる応急処置

乳児期	幼児期																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>症状</th> <th>やけど</th> <th>頭打</th> <th>転倒</th> <th>鼻血</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>熱傷</td> <td>熱傷</td> <td>熱傷</td> <td>熱傷</td> <td>熱傷</td> </tr> </tbody> </table>	症状	やけど	頭打	転倒	鼻血	熱傷	熱傷	熱傷	熱傷	熱傷	<table border="1"> <thead> <tr> <th>症状</th> <th>突き指</th> <th>切り傷</th> <th>ひっかき傷 噛み傷</th> <th>たんごぶ</th> <th>腫れがけ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>熱傷</td> <td>熱傷</td> <td>熱傷</td> <td>熱傷</td> <td>熱傷</td> <td>熱傷</td> </tr> </tbody> </table>	症状	突き指	切り傷	ひっかき傷 噛み傷	たんごぶ	腫れがけ	熱傷	熱傷	熱傷	熱傷	熱傷	熱傷
症状	やけど	頭打	転倒	鼻血																			
熱傷	熱傷	熱傷	熱傷	熱傷																			
症状	突き指	切り傷	ひっかき傷 噛み傷	たんごぶ	腫れがけ																		
熱傷	熱傷	熱傷	熱傷	熱傷	熱傷																		

応急処置

起こりやすい事故と予防策

乳児期	幼児期
<p>寝落ち</p> <p>【予防策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ベッドに顔を向けさせる 布団を敷きっぱなしにしない 落下防止ネットをかける 夜間照明をつける 	<p>ものを持ち上げる</p> <p>【予防策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 床に物を置く 片手で持ち上げる 両手で持ち上げる 両足を踏んで持ち上げる
<p>ハイハイ</p> <p>【予防策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩行開始の前まで遊ばせない 歩行開始後は、歩行開始まで遊ばせない 歩行開始後は、歩行開始まで遊ばせない 	<p>つかまり立ち</p> <p>【予防策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩行開始の前まで遊ばせない 歩行開始後は、歩行開始まで遊ばせない 歩行開始後は、歩行開始まで遊ばせない
<p>歩く</p> <p>【予防策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩行開始の前まで遊ばせない 歩行開始後は、歩行開始まで遊ばせない 歩行開始後は、歩行開始まで遊ばせない 	<p>積み重ね</p> <p>【予防策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 積み重ねる高さ制限を設ける 積み重ねる高さ制限を設ける 積み重ねる高さ制限を設ける

【データで見る 秩父市での子どものけが原因】

対策委員会の役割

- アンケート調査の実施
- リーフレットの作成、配布



SC認証後

- リーフレットのイラスト変更、作成。

(イラスト：
 秩父高等学校
 秩父農工科学高等学校)

予防策

6. リーフレットの配布

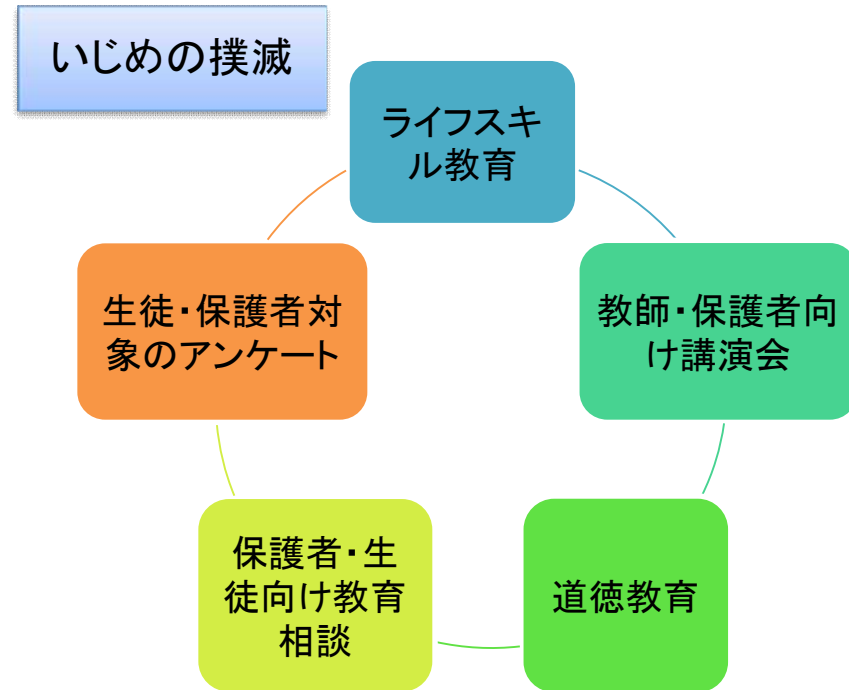
	内容	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
活動	リーフレットの作成・配布	リーフレットの配布	リーフレットの配布	イラスト変更 5,000部作成	リーフレットの配布	リーフレットの配布
短期	屋内の危険を認識した割合（アンケート結果）	2018年より実施		97% n=101	-	86% n=307
中期	屋内の危険個所を改善した割合（アンケート結果）	2018年より実施		41.5% n=101	-	15.6% n=307
長期	家庭内のケガの発生件数（救急搬送データ）	11件	9件	10件	8件	12件

体験型学習で、子どもたち自身に考えさせる機会を設け、問題解決能力を身に付けさせ、対人関係の構築をはかり、いじめを防止。

対策委員会の役割

- ・ アンケート調査の実施
- ・ 体験型学習の支援

年1度の教諭向けライフスキル教育を実施



SC認証後の継続

- ・ ライフスキル教育の実施
(全小・中学校 各1回以上)
- ・ ネットトラブル講習会
(全小学校 各1回以上)

8. 体験型学習の強化

	内容	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
短期	いじめに対する認識の向上（南小学校） n=アンケート設問3つの合計	98.9% n=549	97.9% n=441	98.7% n=495	98.2% n=459	100% n=150
中期	いじめをなくす行動をする児童の割合（南小学校）	97.2% n=183	95.2% n=147	94.5% n=165	98% n=152	99% n=150
長期	いじめの認知件数（全小中学校）	80件	80件	278件 (基準変更)	362件	410件

ネットトラブルの報告件数が増加していることから、スマートフォンの利用について、ルール作りを進める。



対策委員会の役割

- ・ スマホ利用のルール作り支援
- ・ 出前講座の開催



活動実績：スマホ等の使用に関する授業や講習会の実施

2017年	全21校
2018年	全21校
2019年	全21校
2020年	全21校

SC認証後の継続

- ・ ライフスキル教育の実施
(全小・中学校 各1回以上)
- ・ ネットトラブル講習会
(全小学校 各1回以上)

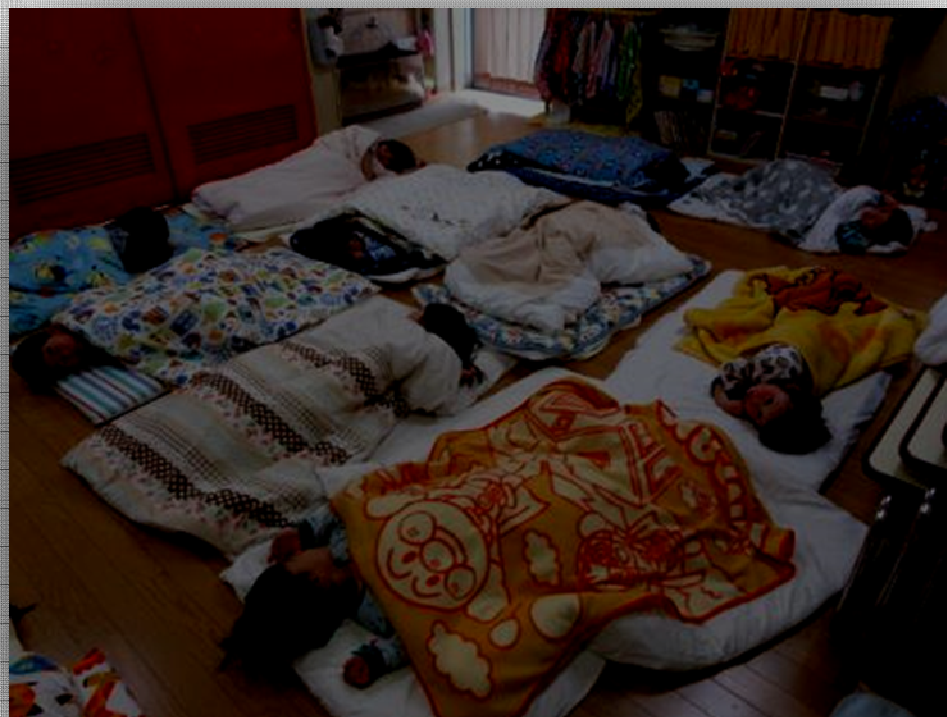
9. スマホ利用のルール作り

	内容	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
短期	スマホのルールを作成している学校数	8 n=21	8 n=21	11 n=21	13 n=21	21 n=21
中期	スマホのルールを守っている割合	96.5% n=113	87.6% n=113	93.9% n=163	94.4% n=113	96.9% n=131
長期	ネットトラブル報告件数	0件	1件	8件	4件	21件

コロナ禍での取組み

■ 保育所における午睡時の取組み

- 新型コロナウイルス感染症予防のため、子ども達の顔が向かい合いにならないように向きを変えて、お昼寝休憩を取る取組みを行っている。



まとめ(評価による振り返り)

	成果	課題
小・中学校のケガ予防	①モデル校である「ISS推進校3校」で、校内ケガの発生件数が減少	①モデル校以外の小中学校への取り組みの広がりがない。 ②部活動中のケガの発生件数が減少傾向にない。
乳幼児のケガ予防	①保育士の園児に対するケガへの意識が向上 ②保育所のケガの件数を見える化	①軽微なケガを含めたため、保育所内のケガの発生件数が増加 ②家庭内でのケガの発生件数が増減を繰り返す
いじめの防止	いじめに対する意識が向上	いじめの認知件数が増加傾向

新たな課題への対応

<p>小・中学校 のケガ予防</p>	<ul style="list-style-type: none">・ ISS推進校3校をモデル校として活動している取組みを、他の小中学校へ広げていく。
<p>乳幼児のケガ予防</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 公立保育所でのケガの特徴（特定の場所等）を詳細に調査し、対策の研究を進める。・ 転落によるケガへの対策の研究を進める。・ 家庭内でのケガ減少に向けて、リーフレットの配布、啓発を継続して実施。
<p>いじめの防止</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 保護者と連携した取組みを進める

ご清聴ありがとうございました



A SAFE COMMUNITY

国際認証都市

セーフコミュニティちちぶ

